

# 人の動きからみた中南部都市圏のいま

昨年十月から十一月にかけて、本県では十七年ぶりとなるパーソントリップ調査（以下、「調査」という。）を実施しました。中南部十七市町村から無作為に抽出した約三万九千世帯に調査票を配布した結果、約二万五千世帯、六万六千人から回答をいただきました。今回は、この調査の集計結果を報告します。



## パーソントリップ調査

### ●パーソントリップ調査とは

パーソントリップ調査は、「人（パーソン）の動き（トリップ）」を捉えることにより、交通実態を把握し、交通計画を策定することを目的とします。

#### ●人の一日の動きを調査

- どんな人（パーソン）が
- どんな目的で
- どこから、どこへ
- どのような時間帯に
- どんな交通手段を利用して
- 移動（トリップ）しているか

中南部都市圏の将来の総合的な都市交通計画を策定

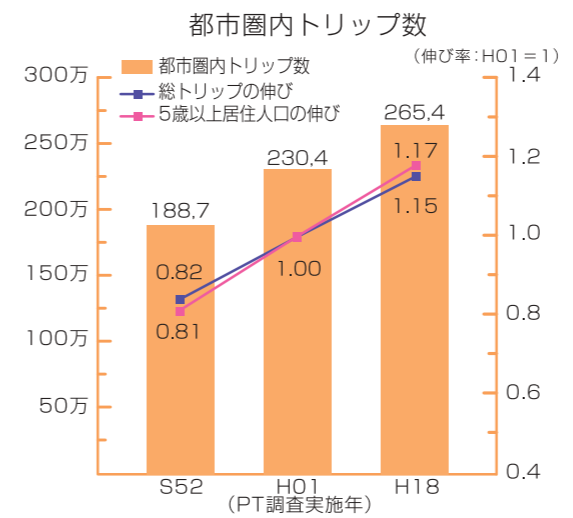
### ●トリップの考え方

人がある目的をもって、ある地点からある地点へ移動することをトリップといい、目的が変わるごとにトリップも変わります。例えば勤務先に行くために、いくつかの交通手段を利用しても「勤務先に行く」ことを目的とする1トリップとして数えます。

下図の、サラリーマンの例の場合は3トリップ、子供の例の場合は4トリップとして数えます。

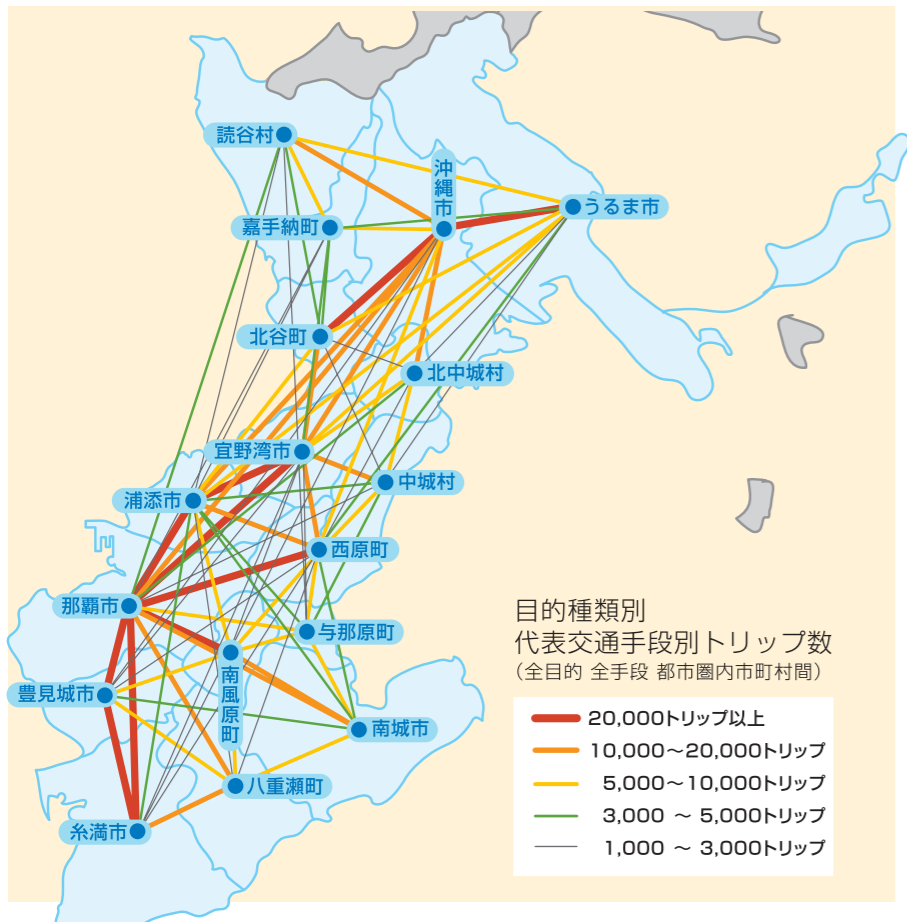
### 中南部における人の動き

人の動きの総数は、人口の増加に伴い、前回調査（平成元年）の約一・一五倍となっています。



### 市町村間のトリップ

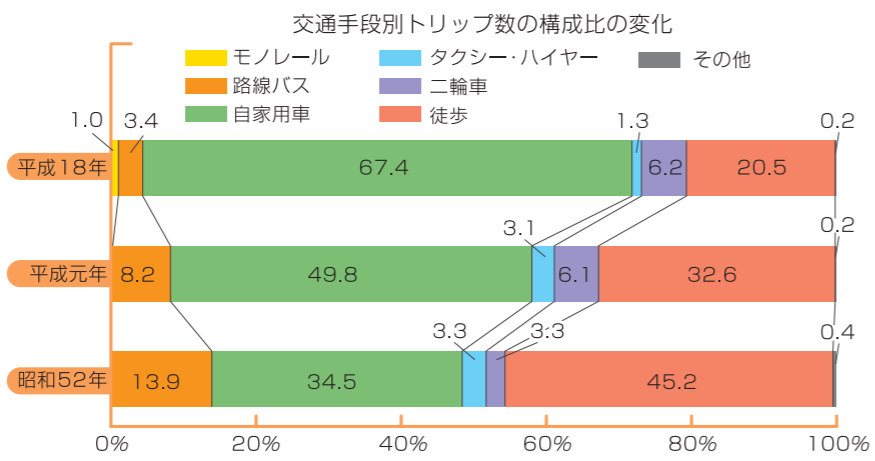
那覇市とその周辺を中心に動く人が多いことがわかりました。市町村間で移動が多いのは、那覇市・浦添市間の約十一万トリップ、沖縄市・うるま市間の約七万トリップ、那覇市・豊見城市間の約六万トリップとなっています。



### 自動車社会がますます進展

過去二回の調査と比較すると、自家用車を利用する人が大きく増加しています。一方で、徒歩、路線バスで移動する人は減少しています。また、那覇市から離れた地域ではとくに自動車への依存度が高い

ことなどもわかりました。



このほか、男性より女性の方が活発に動いていることや、高齢者のトリップが増加していることなどの結果も得られました。

### 調査結果の活用

県では、この調査結果をもとに、関係機関と協力して二十年後の中



自動車が渋滞する道路（那覇市内国道58号線）

南部都市圏を想定した「総合的な都市交通計画」を策定します。計画では、交通環境の問題に対応した道路網計画や、バス、モノレールといった公共交通機関の有効活用策、新しい交通システムの導入などについて検討していきます。また、徒歩や自転車移動しやすい環境づくりも必要であると考えています。

